

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続＞

本日（5日）、海上自衛隊の協力を得て実施した上空からの調査で、昭和火口の火口底に赤熱した溶岩を確認しました。

今回確認された溶岩は少量であり、現在、噴出物量や地殻変動に特段の変化はないことから、大量のマグマが桜島直下に移動した可能性は低く、ただちに火口外に溶岩を流出することはないものと考えられます。しかしながら、引き続き活発な噴火活動が継続する可能性がありますので、火山活動の推移に注意する必要があります。

【防災上の警戒事項等】

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

また、爆発的噴火に伴う大きな空振や、降雨時には土石流に注意が必要です。

○ 活動概況

・上空からの調査（図 1～3）

本日（5日）午前、海上自衛隊第 72 航空隊鹿屋航空分遣隊の協力を得て実施した上空からの調査で、昭和火口の火口底に新たに上昇してきたとみられる溶岩（直径 50～60m）が確認され、溶岩の中央部には赤熱した領域が認められました。赤外熱映像装置¹⁾による観測でも、今回確認した溶岩に対応した部分に高温の領域が認められます。

昭和火口の火口底では、2011 年 5 月 31 日及び 2011 年 7 月 11 日にも溶岩が確認されました。昭和火口では夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映²⁾が発生していることから、溶岩が火口底付近まで繰り返し上昇していると考えられます。

また、前回火口底が確認できた 7 月 11 日と比べ火口底がやや浅くなっていました。

上空からの観測中、昭和火口からは乳白色の噴煙が火口縁上 300m 程度上がり東へ流れていました。溶岩に対応する領域を除き、火口内の地熱域の分布等には特段の変化は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。
※この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。



図 1 桜島 昭和火口内の状況（5日）
昭和火口の火口底に新たに上昇してきたとみられる直径 50～60mの溶岩（図中赤丸）が確認されました。また、溶岩中央部に赤熱した部分が認められます。

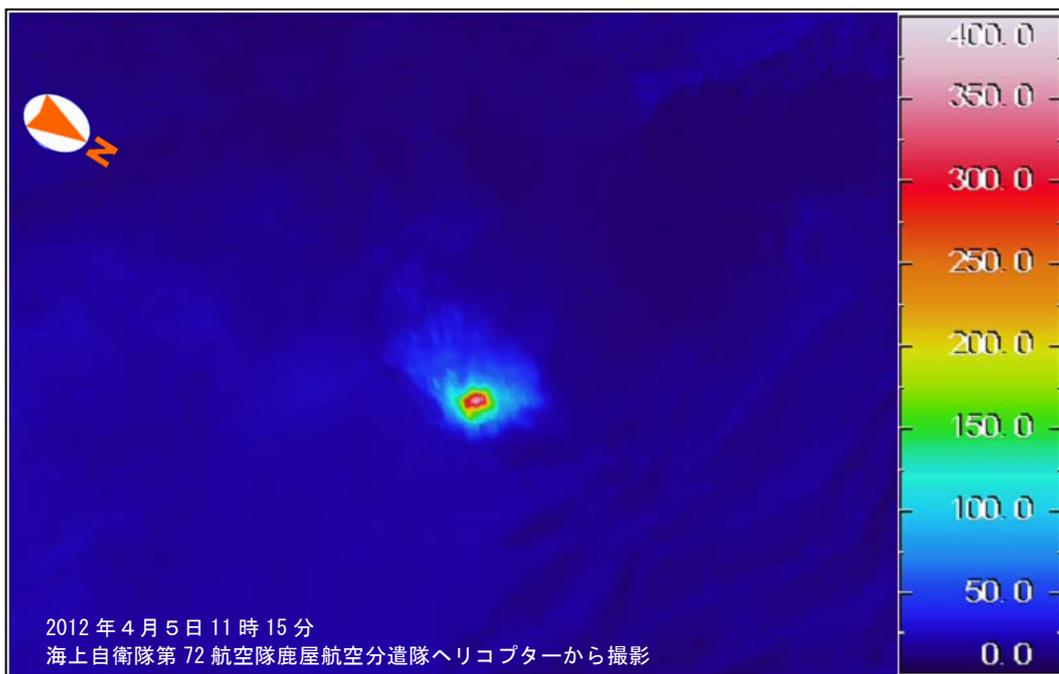


図 2 桜島 赤外熱映像装置による昭和火口内の表面温度分布（5日）
火口底の溶岩に対応した高温の領域が認められます。特に、溶岩中央部の赤熱した部分は非常に高温でした。

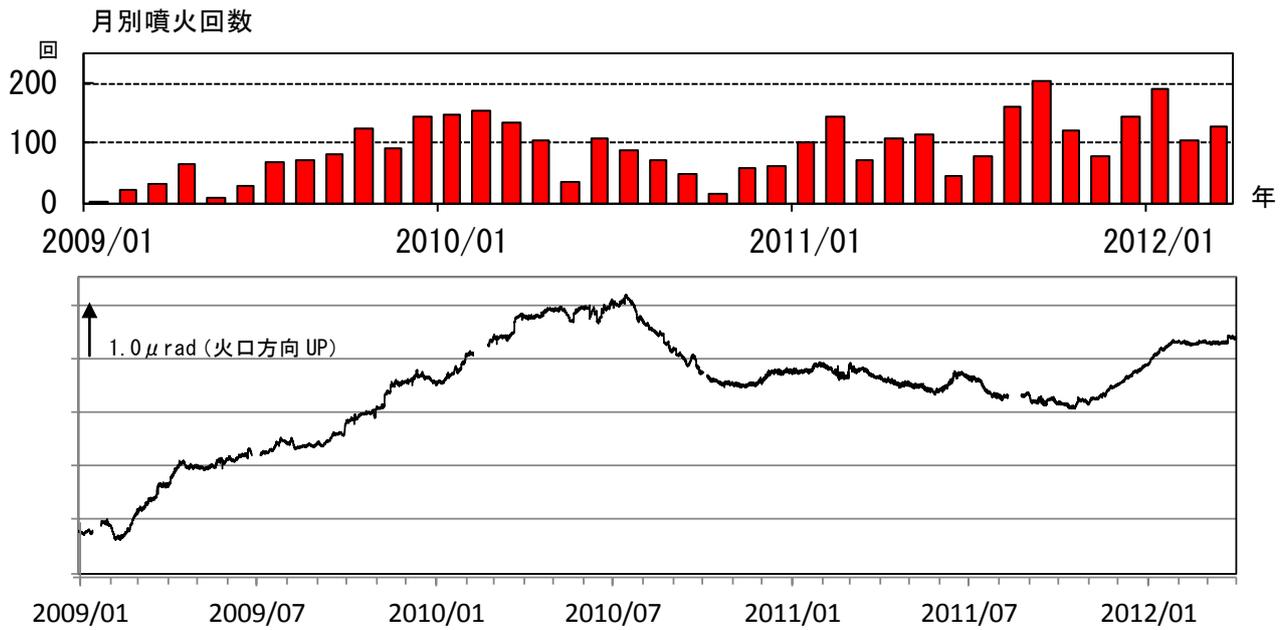


図 3※ 桜島 有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）の変化
(2009 年 1 月～2012 年 3 月)

現在、噴出物量や地殻変動に特段の変化はないことから、大量のマグマが桜島直下に移動した可能性は低く、ただちに火口外に溶岩を流出することはないものと考えられます。

潮汐補正済み

傾斜変動は $0.48E-08/\text{day}$ のトレンド補正を行っています。